

# 第1章

## 計画の概要

## 1 はじめに

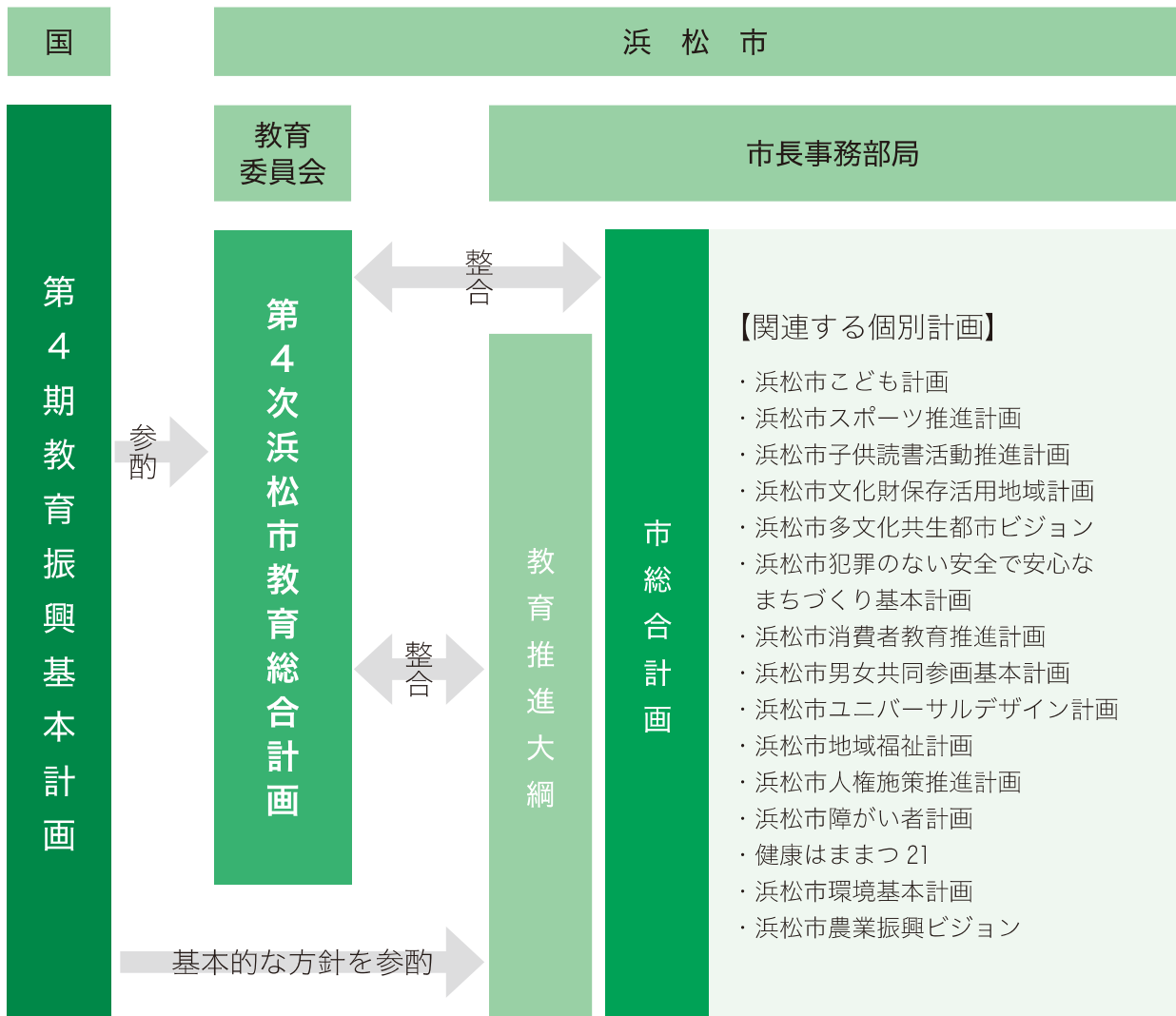
第4次浜松市教育総合計画（以下、「本計画」という。）は、本市のこどもの成長を願い、園・学校・家庭・地域が一体となって推進していく園・学校における教育活動や、こどもの支援に関する施策・取組を体系的にまとめたものです。

本計画の策定にあたっては、2023（令和5）年度から教育委員をはじめ、学識経験者や学校・保護者・民間の代表者が参画する策定委員会を設置し、協議を重ねてきました。

## 2 計画の位置付け

本計画は、教育基本法第17条第2項に基づく本市の教育の振興に関する計画であり、国の「第4期教育振興基本計画」を参酌するとともに、本市の総合計画や教育推進大綱との整合を図りながら策定しました。

また、福祉や子育て支援などに関する施策・取組については、関連する個別計画に基づき、教育委員会や園・学校、担当部局が連携協力を図りながら推進します。



### 3 計画の期間

本計画の期間は、2025（令和7）年度から2034（令和16）年度までの10年間とし、10年間で5年ごとの前期と後期に分けて計画を進行します。



### 4 計画の範囲と対象

浜松市立の幼稚園、小中学校、高等学校における教育活動に関わる取組や、こどもの育ちを支える家庭・地域等と連携した取組を対象とします。

### 5 計画の構成

本計画では、本市の目指す教育の実現に向け、3つの方針と5つの政策に基づき、25の施策を推進します。

なお、「教育DX<sup>1</sup>の推進」及び、「教育データの利活用<sup>2</sup>」は、どの政策にも欠かせない観点として全体を包含しています。

### 6 計画のマネジメント

本計画は、計画（Plan）、実行（Do）、測定・評価（Check）、修正・改善（Action）のサイクルに基づいてマネジメントを行います。1年ごとのPDCAサイクルで、実行した施策や具体的な取組を評価し、次年度に向けて修正・改善を図っていくとともに、5年間のPDCAサイクルで前期計画の評価を基に後期計画へと修正・改善を図っていきます。

また、計画の評価にあたっては、施策ごとに指標を設定し、その状況分析をもとに具体的な取組を重点化、完了、修正・改善へと反映させていきます。

なお、こどものウェルビーイング<sup>3</sup>に関する指標を施策の指標とは別に設定し、施策の進捗とこどものウェルビーイングについて把握していきます。

- 1 DXはデジタル・トランスフォーメーションを指し、学校がデジタル技術を活用して、今までできなかった学習や業務を実現し、時代に対応した教育を進めていくこと
- 2 教育データを活用して、取組や実践を評価し、より良い方向へと改善していくこと
- 3 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念  
多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念

## Q なぜ教育DXや教育データの利活用を進めるの？

本市では、こどもたち一人一人の可能性を引き出す個別最適な学びや、創造力を育む主体的な学びの充実、学校における働き方改革をさらに推し進めるため、デジタル技術や様々なデータを活用して学校教育に変容・変革をもたらす教育DXを推進します。

国や市では、こども、教職員、学校、保護者の皆さんを対象に様々な調査を実施しており、これらの結果は教育施策を評価して改善していくための重要なデータとなります。

また、教育活動からも学習の記録など様々なデータを得ることができます。

こうしたデータを共有・分析して、よりきめ細やかな学習指導やこども・学校の実態に応じた支援、成果を上げている学校の事例について横展開を図るなど、教育データの利活用を進めていきます。

